

ジョルジュ・ルオー作《超人》について — ルオーとウォルター・パッチ、ジョン・クインの書簡の分析を中心に

坂本篤史

はじめに

フランスの画家ジョルジュ・ルオー（1871–1958）の《超人》（図1）は、福島県立美術館がサザビーズ社の斡旋を受け2009年度に購入したものである。画中には右を向いた男性の全身像が描かれており、彼は大きな立襟が特徴的な衣服を身にまとっている。本作品は紙に油彩で描かれ、支持体の紙は板で裏打ちされている。作品のサイズは縦横104.3×74センチであり、画面左上の署名と年紀（G. Rouault 1916）から、1916年の制作であることが分かる。

収蔵当時、来歴については不明な点が少なからずあったが、本作品が2007年5月から6月までニューヨークの画廊ミッチェル＝イネス＆ナッシュにて開催された「ジョルジュ・ルオー：裁判官、道化師、娼婦」展に出品されたことは、額の裏蓋に貼付された出品票から疑う余地はない。

同展図録が指摘しているとおり、《超人》はアメリカの美術コレクター、ジョン・クイン（1870–1924）の旧蔵品であった（註1）。本作品はクインの死後も複数の個人コレクターのもとに渡ったためか（註2）、展覧会等で公開される

機会も少なく、管見の限りでは、本作品の個別研究はないように思われる。そこで論者は作品の基本情報を収集するため、ルオーとクイン、そして二人の共通の友人であったウォルター・パッチ（1883–1958）による未刊行の書簡などを探ったところ、そこには本作や関連作品に関する言及が見られた。本稿では、そうした文字資料から、クインが《超人》を取得するまでの経緯や関連作品、初期の出品歴を明らかにし、最後に作品の主題解釈についても若干の考察を試みる。さらに本稿の末尾には、3人の書簡から《超人》とその関連作品に関する記述を抄録する。

1 《超人》とその対作品《冬》

考察の前に、まず1910年代のアメリカ国内における美術動向のなかで、パッチとクインの活動を概観したい。アメリカ美術史において、1910年代はヨーロッパからモダニズム芸術が本格的に流入し、以後の前衛美術の展開に大きな影響を及ぼした重要な時期にあたる。その直接の契機となったのが、アメリカ画家・彫刻家協会によって1913年にニューヨークで開催された「国際近代美術展」、通称アーモリー・ショーであった。展覧会には同時代のアメリカ美術と並んで、キュビズムやフォーヴィスムなど、フランスを中心とするヨーロッパの最新の美術が紹介された。このとき同展の開催に深く関与したのが、パッチとクインであった。

パッチはアーモリー・ショーの実務者のひとりとして、ヨーロッパ美術を担当し、パリに滞在して作家や画廊のもとを訪ね、出品作品の選定を行った。パッチの最も大きな功績のひとつは、同展においてヨーロッパの前衛美術をアメリカに紹介した点にある（註3）。彼はほかにも画家、美術批評家、美術史家として幅広く活動

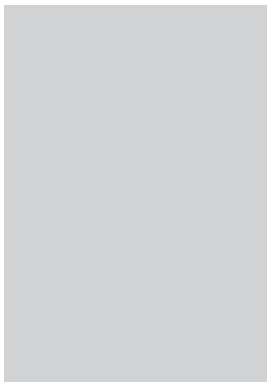


図1 ジョルジュ・ルオー《超人》1916年
福島県立美術館蔵

し、米仏での人脈を生かして、コレクターと画廊、作家の仲介役も務め、ときにはコレクターに助言を与えることもあった。

一方、ニューヨークの弁護士であったジョン・クインは、美術コレクターとして知られ、アメリカ画家・彫刻家協会の名誉会員として、アーモリー・ショーに77点を出品したほか、同展の開催に財政的な支援も行ったという(註4)。彼のコレクションには、たとえばアンリ・マティスの《青い裸婦》(アーモリー・ショー出品作、ボルティモア美術館蔵)、パブロ・ピカソの《老いたギター弾き》やアンリ・ルソーの《眠るジプシー女》(ともにニューヨーク近代美術館蔵)など、フランス近代美術を代表する作品が多く含まれており、アメリカで最も重要なフランス近代美術のコレクターのひとりに数えられる。クインは1924年に死去する直前までパッチと書簡のやり取りを行っており、フランス語の翻訳や作品購入についての助言を彼に求めていた。クインがルオーに宛てた1916年1月17日付の書簡では、パッチを「共通の友人」と記している(註5)。

ルオー、パッチ、クインの書簡にはいまだ未調査のものも多く含まれているが、現時点において判明したところによれば、《超人》の制作の様子はルオーがパッチに宛てた一連の書簡(ワシントン、アメリカ美術文書館蔵)から知ることができる(註6)。まず1915年6月1日の消印を持つ書簡において、ルオーは「1. 超人」、「2. 風景『冬』」(本稿では以後《冬》とする)という「二つの大きな作品を制作中」とし、「その大きさは0.79×1.05メートル」であると記している(註7)。作品サイズは福島県立美術館所蔵の《超人》とほぼ一致する。

書簡で言及されている二作品は制作時期やサイズが共通することから、相互に関連を持つ対作品のように思われた。そのため論者はまずイザベル・ルオーによるルオーのカタログ・レゾネにおいて、「1910年代の風景画」に分類された作品群を参照したが、該当しうるものは見つけられなかった(註8)。結論からいえば、《冬》は別の作品名でその後美術市場に出ることになるが、作品同定については第4章で行うこととする。

前述の書簡が送られてから約7か月後の1916年1月15日の消印を持つパッチ宛ての書簡では、ルオーは二つの作品名について以下のように述べている。

「風景」もしくは「冬」と、そして「[特定の]超人」あるいは「グロテスク」、または「超人」と名付けてください。作品名が漠然としたものであればあるほど、それはますますわたしの主題と合致します。言葉が「物事と」合致して意味を持ち、あるいはまた、ある絵画作品に対してそれが何かを指し示すものとなりうるのであれば(註9)。

つまり作家自身にとって、二作品は特定の風景や人物を表したものというよりはむしろ、漠然とした何らかの主題を表したものであったと推測される。後述するように、おそらくそれは複数のイメージが混然一体に融合したものであったと思われる。なお「グロテスク」とは誇張や歪曲により奇怪な姿をしたカリカチュアを指すだろう。

このほか同書簡では、「もしわたしの大作品[《超人》と《冬》]が売却されるのであれば、[額に]ガラスと隔てを入れることを推奨します」(註10)と記しており、《超人》と《冬》は商品として市場に出る可能性が示唆されている。

さて、それから一週間後の1月22日の消印を持つパッチ宛ての書簡では、大作品はすでに完成し、ルオーは「自ら輸送品をポティエのもとに運び込んだ」(註11)と記している。このポティエなる人物はクインがルオーに宛てた1918年4月付(日付なし)の書簡に登場するシャルル・ポティエのことであろう。1918年の書簡において、ポティエの住所は「パリ、ゲイヨン通り14番地」(註12)と記載されているが、この事業者名と住所は『アメリカン・アート・ニュース』1921年2月12日号の広告欄にも見られ、そこには「梱包輸送代理業者」(註13)と記載されている。かくしてこれらの作品はニューヨークのパッチのもとへ届けられた。

2 《超人》と《冬》の制作の目的と最初期の出品歴

すでに述べたように、1916年1月15日消印のルオーの書簡には、《超人》と《冬》が商品として市場に出ることをうかがわせる記述があるものの、これらが誰のために、あるいは何のために制作されたのかについては言明されていない。しかし、16年4月1日とかなり遅く判読できる消印を持つ、パッチ宛てのルオーの書簡には、この点について示唆に富む記述がある。ここでルオーはパッチに対して「目録と、《超人》の図版を掲載したあなたの批評」(註14)を受け取ったと記している。ルオーがこのとき収受したのは、消印の日付から2日後の4月3日から29日まで、ニューヨーク五番街のブルジョワ画廊にて開催される展覧会の目録と、『ハーバース・ウィークリー』1916年4月29日号に掲載されるパッチの批評「今日の近代美術」に関するものであったろう(註15)。

この展覧会はアメリカとヨーロッパの同時代の作家たちによる美術品81点で構成され、その中にはルオーの《超人》と《冬》(目録では《風景》)も含まれている(註16)。またパッチの「今日の近代美術」はまさにこの展覧会を批評したものであり、ルオーが述べたように、《超人》の挿絵が見られる(図2)。ルオーがパッチに宛てた一連の書簡には制作の進捗状況や納期に関する言及が散見され、かつブルジョワ画廊での展覧会はパッチが企画から関与していたことから(註17)、ルオーはパッチの依頼を受け、ブルジョワ画廊での展覧会に出品することを目的

に、納期に追われながら《超人》と《冬》を制作したと思われる。

ところで『ハーバース・ウィークリー』の展覧会評は、パッチがクインに宛てた1916年5月15日付の書簡でも言及されている。そこには以下のように記されている。

今あなたの所有になっているルオーの《超人》の図版は、近代美術について述べたわたしのとても短い記事の挿絵のひとつとして、ハーバース・ウィークリーに載っています(註18)。

つまりこの時点で《超人》はクインが取得していた。本作品の支払いについて直接言及した書簡は現時点では見つけられなかったが、以下に詳述するように、クインはブルジョワ画廊から作品を購入したと考えられる。

クインがブルジョワ画廊の経営者ステファン・ブルジョワに宛てた1916年6月22日付の書簡には、次のように記されている。

[レイモン・デュシャン=] ヴィヨンの彫刻はたしかに届きました。ルオーの《超人》の絵も、デュフィの《黄色い帽子》も、[ジョセフ・]ステラの水彩画もまたしかり。ルオーの風景画の代わりにスーラの作品が送られてきました。わたしはオブ(註19)の使用人を呼び寄せ、誤ってわたしのもつに送られてきた作品を戻してルオーの風景画を取得するよう彼に命じました(註20)。

これはブルジョワがクインに宛てた前日21日付の書簡に対する返信であった。21日付の書簡はブルジョワ画廊の展覧会とフィラデルフィアのマックリーズ画廊で開催された展覧会へのクインの協力に対する、ブルジョワの礼状であったことが指摘されている(註21)。そこで論者はマックリーズ画廊での展覧会「フィラデルフィア初の先進的な近代美術展」の目録を確認したところ、《超人》を含め、ここで引用された作家や作品は、二点を除いてすべて同展に出品されたことが判明した(註22)。つまりクインの所

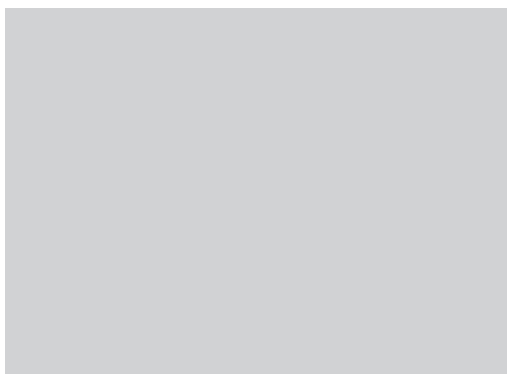


図2 『ハーバース・ウィークリー』1916年4月29日号

蔵品の一部は、おそらくブルジョワ画廊での展覧会終了後、フィラデルフィアへ直接輸送され、マックリーズ画廊での展覧会に出品されたと推測される。

一方、ルオーの風景画とスーラの作品については、フィラデルフィアの展覧会目録には登場しないが、それらに該当しうる作品はブルジョワ画廊での展覧会目録において確認できる。論者の推測では、これらはフィラデルフィアの展覧会が終了するまで、ブルジョワ画廊にしばらく留め置かれたのだろう。そしてフィラデルフィアでの展覧会終了後、出品作品は一度ブルジョワ画廊に戻され、留め置き作品とともに所蔵者の元に返却されることになっていたが、その途中で作品の取り違えが起こったのだろう。この推測が正しければ、ブルジョワ宛ての前述の書簡で言及された「ルオーの風景画」とは《冬》を指すはずである。

さらに同書簡には、クインがブルジョワ画廊から《超人》と《冬》を購入したことを示唆する記述がある。クインによれば、当初ブルジョワ画廊はデュフィの《黄色い帽子》に600ドルの値を付けていたが、「ほかの作品群」も購入することを条件に、500ドルに値引いてくれるとブルジョワが話したという(註23)。「ほかの作品」にルオーの作品も含まれるとすれば、クインはブルジョワ画廊からルオーの《超人》と《冬》を購入したことになる。

3 《超人》と《冬》の関連作品

ルオーがパッチに宛てた一連の書簡では《超人》と《冬》のほかに、これらに関連すると思われる別の作品が登場する。1916年1月15日消印の書簡を要約すれば、ルオーは《超人》の裏打ち用の厚紙の中に80センチの紙作品を忍び込ませた。それは片面に風景が、もう片面に「グロテスク」が表されていて、パッチへの贈物であるという(註24)。以後、ルオーはパッチ宛ての書簡において、これを「あなたの一枚物の紙作品」あるいは「小作品」と、また《超人》および《冬》を「大作品」と記して両者を明確に区別している。すでに述べたように、ルオーは《超人》の別名として《グロテスク》を提案し

ていたことを想起すれば、二点の大作品と一枚物の紙作品は主題が一致する。

さらに同年1月22日消印の書簡において、ルオーは「今度の二点の大作品はあなたの一枚物の紙作品に劣らぬ出来映えと信じています」と述べる一方で、「大作品が二点の小作品の様式や色彩を有していないことにわたしは内心怒り、自嘲していました」(註25)と記している。こうした記述から、一枚物の紙作品と二点の大作品の主題が一致するのは単なる偶然ではなく、これらはさらに密接な関係性を有していたように思われる。

ルオーは一枚物の紙作品について「二つの主題が合わないことは十分承知していますが」(註26)と述べてはいるものの、ルオー自身にとって《超人》と《冬》、およびパッチに贈った紙作品の表裏はそれぞれ対の関係にあるとともに、大作品と紙作品もまた対応関係にあったように思われる。

4 《超人》の対および関連作品の同定

クインが没した1924年時点においても《超人》は売却されなかった。彼の死から2年後の1926年1月にはニューヨーク・アート・センターにおいて、彼のコレクションを一堂に会した展覧会が開催され(註27)、それを契機に『ジョン・クイン 1879-1925 [原文ママ] 絵画、水彩画、素描、彫刻コレクション』が刊行された(註28)。この書籍は彼のコレクションのリストとともに、巻末にモノクロ図版を収めている。ルオーの作品は計26件あり、その中には「29×41インチ [約74×約104センチ]」の《超人》も確認できる。

ここでふたたび同書に《冬》を探ってみたが、同名の作品はおろか、風景画さえ記載されていなかった。一方《超人》の直後には、これと同サイズの《ユビュ王の宮殿》なる作品が列記され(註29)、さらに作品のモノクロ図版も掲載されている(図3)。ここにはイスラム教のモスクもしくはロシア正教会の聖堂を思わせる半球形のドームを冠した塔を中央に配し、その両側に低い建造物が連なっている。また屋根や手前の地面には、雪が降り積もっており、冬の風景



図3 ジョルジュ・ルオー《冬》1916年

が描かれていることは一見して明らかである。

この作品は《ユビュ王の宮殿Ⅰ》として、またクイン旧蔵品として、2018年6月21日にロンドン・クリスティーズ社の競売に掛けられた(註30)。画面右下には《超人》とまったく同一の署名と年紀(G. Rouault 1916)を確認することができる。したがって、これが《超人》とともにルオーの書簡に登場する《冬》に同定できるだろう。なおユビュ王とは、のちに考察するように、アルフレッド・ジャリの同名の戯曲の主人公である(註31)。

次に、片面に風景を表し、もう片面にグロテスクを描いたパッチへの贈物の同定を行いたい。《冬》の図様が明らかになることで、この両面作品は比較的容易に同定することができる。それは現在ニューヨークのメトロポリタン美術館に所蔵される《ドイツ士官の肖像》と《ユビュ王の宮殿》(図4、5)であっただろう。同館の収蔵品データベースによれば、紙の両面にガッシュで描かれた本作品は、1916年の年紀を持ち、ルオーがパッチに贈ったものであった

という(註32)。作品サイズは76.2×58.1センチで、ルオーの書簡の記述(80センチ)ともほぼ一致する。表面には帽子のようなものをかぶり、大きな立襟が特徴的な衣服を着た男性の正面像が、裏面には半球形のドームを冠した塔を背景に収めた風景が描かれている。前者に見られる大きな立襟は《超人》のそれと共通し、かつ後者の塔は《冬》にもほぼ同様の建造物が見られる。したがって、この両面作品は主題においても、図像においても《超人》および《冬》と密接な関係を有していたことが確認できる。とはいえ各図像は相違点も見られることから、これらは下絵と本画の関係にあったというよりは、ある種のヴァリエントと考えるのが適切かもしれない。

5 《超人》の主題解釈

ここで問題となるのはメトロポリタン美術館の両面作品の作品名である。同館の収蔵品データベースによれば、本作品はパッチ存命中の1945年にニューヨークのピエール・マティス画廊で開催されたルオーの個展に出品され、その際表面は《頭部(Head)》という作品名が付けられていたという。

一方イザベル・ルオーのカタログ・レゾネにおいて、これは「ドイツの軍人、1914-1918」に分類され、《フォンX》(註33)という慣用の作品名が付されている。すでに述べたようにルオーは当初表面の作品名を《グロテスク》としていたが、ここではひとつの例としてフランス

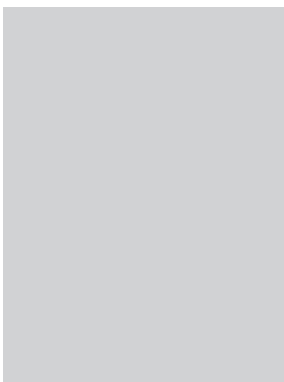


図4 ジョルジュ・ルオー《ドイツ士官の肖像》1916年
ニューヨーク・メトロポリタン美術館蔵(図5の表面)

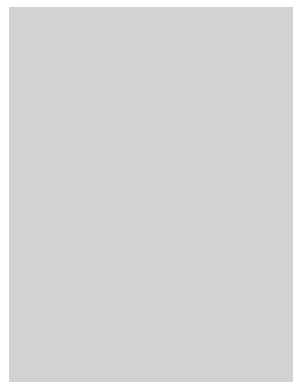


図5 ジョルジュ・ルオー《ユビュ王の宮殿》1916年
ニューヨーク・メトロポリタン美術館蔵(図4の裏面)

の日刊紙『エクセルシオール』1915年1月23日付の誌面に見られるドイツ陸軍参謀総長エーリッヒ・フォン・ファルケンハインの肖像写真(図6) (註34) とこの作品を比較したい。すると、両者は大きな立襟が類似しており、画中の男性はたしかにドイツ将校を想起させる。この作品が描かれた時期は第一次世界大戦とちょうど重なっており、フランスはドイツの侵攻を受けていた。そうした事情を加味すれば、パッチ旧蔵の紙作品の表面には、そしておそらくは《超人》にも、ドイツ人将校の姿が重ね合わされていたのだろう。実際《超人》では、人物は真横を向き、右腕を曲げて前に出しているが、このポーズは3点の《ドイツ士官》(註35)とも共通する。

一方裏面について、ルオーはパッチ宛ての書簡において当初《風景》と記したが、パッチ存命中の1937年にピエール・マティス画廊で開催された展覧会では《ユビュ王の宮殿》にタイトルが変更されている。同様にクイン旧蔵の《冬》については、所蔵者の死から二年後の1926年に開催された展覧会において《ユビュ王の宮殿》という作品名で出品されている(註36)。作品名の変更がいつ、誰によって、そしていかなる理由で行われたのかという謎は現時点では明らかにできない。しかし、マティス画廊の展覧会がパッチの存命中に開催されたことは強調してよいだろう。というのも、作品名の変更は少なく

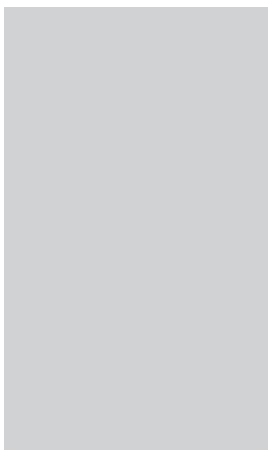


図6 ドイツ陸軍参謀総長エーリッヒ・フォン・ファルケンハインの肖像写真 (Excelsior: journal illustré quotidien, January 23, 1915より)
Source gallica.bnf.fr / BnF

とも所蔵者の同意を得て行われたと考えるのが自然だからである。とりわけパッチのように近代美術に造詣が深く、さらには画家から直接取得した作品のタイトルが所蔵者の知らぬところで変更されたとは考えにくい。

では、これらの風景作品とジャリの戯曲「ユビュ王」のあいだに関連性は見出せるのだろうか。「ユビュ王」のあらすじは下劣なユビュがポーランド王を暗殺して王位を奪い、その後は貴族や役人や百姓を次々と殺していくというものであった(註37)。したがって画中にはユビュがポーランド王から奪い取った王宮が描かれているのかもしれない。ただしジャリはユビュ王の宮殿の外観について記してはいない。ジャリが設定した舞台は「何処にもない場所」(註38)であり、その条件にかなったのが、フランスから遠く離れた、伝説的で分割されたポーランドであった。一方季節についていえば、たとえば第四幕第五場では、リトアニアの洞窟へと舞台が変わっているが、そこは「雪が降っている」(註39)と記されており、クイン旧蔵の《冬》と季節が一致する。

同時代の人々に大きな衝撃を与えた「ユビュ王」はジャリの死後、アンブロワーズ・ヴォラールがその版権を買い取り、1916年以降続編を次々と発表する。ヴォラールはルオーの才能を見いだした画商として知られるが、彼はユビュの続編の挿絵をルオーに依頼し、その交換条件として『ミセレーレと戦争』の出版を彼に約束した。ヴォラールの続編は最終的に『ユビュおやじの再生』として1932年に出版され、ひとつの完成を見る(註40)。

すでに指摘されているように、パッチ旧蔵の両面作品に見られる「ドイツ将校」と「ユビュ王」の主題は密接に結びついていたかもしれない(註41)。すでに述べたように、これらが描かれた時期は第一次世界大戦の最中であり、フランスはドイツ軍による侵攻を受けていた。一方、ユビュは不当な言いがかりをつけてポーランド王を暗殺し、自ら王位について暴虐の限りを尽くした。最終的にユビュは王位を剥奪され、ポーランドを追放されることになるが、彼は終始横柄であり、つねに人を罵倒する不条理

な存在として描かれている。ルオーの眼にはユビュの姿はフランスに侵攻するドイツ軍と重ね合わされていたのかもしれない。

ユビュ王との関連性は《超人》にも見出される。巨大な鷲鼻や大きく見開いた目、でっぷりとした体形は、すでに指摘されているように、たしかに《ユビュ王》の姿とも重なる(註42)。このほかにもクインがのちの1919年4月にルオーから購入したアルバム『ボシ(Bochie:ドイツの蔑称)』を構成していた《放蕩息子…II》(註43)や、《うぬぼれ男》(註44)のような同時期のカリカチュア作品群には《超人》と類似した作品が多く見られる(註45)。あるいは《超人》という作品名は、ドイツの哲学者ニーチェが提唱した超人思想と関連性を持つのかもしれない(註46)。右腕を曲げて天を指差した《超人》のポーズは《不幸な預言者》(註47)とも共通し、どこか宗教的な雰囲気さえ醸し出している。

すでに述べたように、《超人》についてルオー自身は作品名が漠然としていることを望んでいた。これはすなわち多様な要素が複雑に絡み合い、一言では語り尽くせない作品が《超人》であったように論者には思われる。そしてまた論者の仮説のとおり《冬》が《超人》の対作品であったとするならば、《冬》はユビュとの関連性を示唆するとともに、戦争下の陰鬱なルオーの心境を表していたのかもしれない。

結論

ジョン・クイン・コレクションは彼の死後競売に付され、各地に分蔵された。《超人》は1926年10月に開催されたパリのオークション会社オテル・ドゥルオの競売にて20,500フランで落札されたのち(註48)、長らく市場に出ることはなかったと思われる。本作品がふたたび市場に出た2007年、《超人》はようやくルオー研究の俎上に載ったといえるだろう。先行研究においてはパッチ旧蔵作品と《超人》はユビュとの関わりの中で論じられてきたが、これらの作品の関連性は本稿で考察したルオーの書簡によって改めて確認された。

ルオーは《超人》の完成からまもなくして、本格的にユビュの挿絵に取り組むことになる。

また本論では取り上げられなかったが、《超人》や《冬》は、ルオーの代表作である銅版画集《ミセレーレ》の《心気高ければ、首筋強張らず》や《我がうるわしの国、今いずこ》にも通じる要素を有している。したがって《超人》はこうした版画作品の最初期の構想を伝える貴重な作品のひとつに位置づけられるだろう。

(さかもと あつし/主任学芸員)

註

本稿では以下の省略記号を用いる。

- AAA-WPP: Archives of American Art, Walter Pach Papers
 - NYPL-MAD-JQP: New York Public Library, Manuscripts and Archives Division, John Quinn Papers.
- (1) *Georges Rouault: Judges, Clowns and Whores*, exhibition catalogue (May 2–June 9, 2007, Mitchell-Innes & Nash, New York), New York, 2007, cat. no. 20, p. 55.
 - (2) 《超人》は2007年2月、つまりミッチェル＝イネス&ナッシュでの展覧会開幕の3か月前に、ロンドン・クリスティーズ社の競売に掛けられたと思われる。同社のデータベースによれば、それはパリの画商アレックス・マギィからフランスの個人コレクターに渡ったものだという。*Impressionist and Modern Art Day Sale*, sale no. 7355, Christie's, London, February 7, 2007, lot no. 350. <https://www.christies.com/lot/lot-georges-rouault-le-superhomme-4857150/?from=searchresults&intObjectID=4857150>
 - (3) McCarthy, Laurette E., *Walter Pach (1883–1958): The Armory Show and the Untold Story of Modern Art in America*, Pennsylvania, 2011, p. vii.
 - (4) Nadan, Tal, “John Quinn and the 1913 Armory Show,” in <https://www.nypl.org/blog/2013/12/05/john-quinn-1913-armory-show> (Published on December 5, 2013) このほかクインについては以下を参照。Zilcher, Judith, “The Noble Buyer”: *John Quinn, Patron of the Avant-Garde*, Washington, D.C., 1978.
 - (5) NYPL-MAD-JQP, *Letterbooks*, vol. 11, p. 590 [発信者:クイン、受信者:ルオー、1916年1月17日付、タイプ打ち書簡(写し)]
<http://archives.nypl.org/mss/2513#detailed>

- (6) パッチがルオーに宛てた書簡の有無について、2017年6月に論者はパリのジョルジュ・ルオー財団に照会を行ったところ、アンヌ＝マリー・アギュロン氏より1930年の書簡2通の画像を提供いただいた。同氏によれば、財団にはこのほかにパッチの書簡は所蔵していないとのことであった。
- (7) AAA-WPP, Series 2, Box 2, Folder 51. [発信者:ルオー、受信者:パッチ、1915年6月1日消印、自筆書簡] <https://www.aaa.si.edu/collections/walter-pach-papers-16128/subseries-2-2> 書簡原文は抄録【書簡1】を参照。
- (8) ベルナルド・ドリヴァル、イザベル・ルオー『ルオー全絵画』柳宗玄、高野禎子訳、岩波書店、1990年、作品番号771-831。
- (9) AAA-WPP, Series 2, Box 2, Folder 51. [発信者:ルオー、受信者:パッチ、1916年1月15日消印、自筆書簡]【書簡2】を参照。
- (10) 【書簡2】を参照。
- (11) 22日消印の書簡では「先週の月曜 [1月15日]、ポティエまで絵を運ぶには、ある種の勇敢さがわたしには必要だった」ともルオーは述べており、一週間前の15日にはすでに作品は完成していたことが分かる。ルオーはこのとき作品の運び出しを試みたが、おそらく作品が重量もしくは大型であったため、試みは失敗に終わったのだろう。AAA-WPP, Series 2, Box 2, Folder 51. [発信者:ルオー、受信者:パッチ、1916年1月22日消印、自筆書簡]【書簡3】を参照。
- (12) NYPL-MAD-JQP, *Letterbooks*, vol. 18, p. 717. [発信者:クイン、受信者:ルオー、1918年4月(日付なし)、タイプ打ち書簡(写し)]
- (13) *American Art News*, vol. 19, no. 18, February 12, 1921, p. 5.
- (14) AAA-WPP, Series 2, Box 2, Folder 51. [発信者:ルオー、受信者:パッチ、1916年4月1日消印、自筆書簡]【書簡4】を参照。
- (15) *Exhibition of Modern Art: Arranged by a Group of European and American Artists in New York*, exhibition catalogue (April 3-29, [1916], Bourgeois Galleries, [New York]) n.p., n.d. in AAA-WPP, Series 2, Box 6, Folder 8 [<https://www.aaa.si.edu/collections/walter-pach-papers-16128/subseries-6-1/box-6-folder-8>]; Pach, Walter, "Modern Art Today," in *Harper's Weekly*, April 29, 1916, pp. 470-471.
- (16) "ROUAULT, GEORGES. [?] 32. Superman. [?] 33. Landscape." *Exhibition of Modern Art*, cit., p. 10. なお、『アメリカン・アート・ニュース』1916年4月8日号には匿名記者による展覧会評があり、そこには「ジョルジュ・ルオーは驚くほど醜い頭部の《超人》と風景画を送っている」と記されている。*American Art News*, vol. 14, no. 27, April 8, 1916, p. 3.
- (17) McCarthy, *op. cit.*, pp. 73-74.
- (18) Perlman, Bennard B.(ed.), *American Artists, Authors, and Collectors: The Walter Pach Letters, 1906-1958*, New York, 2002, pp. 274-276. 【書簡5】を参照。またこれに対するクインの応答は【書簡6】を参照。
- (19) ジョージ・オブのこと。彼は画家として活動していたが、クインの注文を受けて額縁なども制作していた。クインがオブに宛てた1916年6月30日付の書簡では、ルオーの《超人》《冬》ほか11作品のキャプション・プレートをオブに発注している。NYPL-MAD-JQP, *Letterbooks*, vol. 12, pp. 926-927. [タイプ打ち書簡(写し)]
- (20) NYPL-MAD-JQP, *Letterbooks*, vol. 12, p. 892. [発信者:クイン、受信者:ブルジョワ、1916年6月22日付、タイプ打ち書簡(写し)]【書簡7】を参照。
- (21) Zilczer, *op. cit.*, p. 66, n. 37.
- (22) *Phiradelphia's First Exhibition of Advanced Modern Art*, exhibition catalogue (May 17-June 15, 1916, McClees Galleries, Philadelphia), Philadelphia, 1916, in AAA-WPP, Series 2, Box 6, Folder 8.
- (23) "I called up your secretary and told her that there was a mistake in the Dufy picture "The Yellow Hat". Your price to me for this was \$500. I recall quite distinctly your saying that the gallery price was \$600, but in view of my taking it and the others you would make it \$500." NYPL-MAD-JQP, *Letterbooks*, vol. 12, p. 892. 書簡の基本情報については、註20を参照。
- (24) 【書簡2】を参照。
- (25) 二つの引用文は【書簡3】を参照。
- (26) 【書簡2】を参照。

- (27) *Memorial Exhibition of Representative Works Selected from the John Quinn Collection*, exhibition catalogue (January 7–30, 1926, Art Center, New York), New York, 1926. 同展に出品されたルオーの作品は1点のみであり、それは《ユビュの宮殿》という作品名が付けられている。これは後述するように《冬》に同定される。
- (28) *John Quin: 1870–1925: Collection of Paintings, Water Colors, Drawings & Sculpture*, Huntington, 1926.
- (29) ““Superman,” 29 x 41 in. [I] “The Palace of Ubu Roi,” 29 x 41 in.” *Ibid.*, pp. 14, 111 with fig.
- (30) *Impressionist and Modern Art Day Sale*, sale no. 15484, Christie’s, London, June 21, 2018, lot no. 431. <https://www.christies.com/lot/lot-georges-rouault-1871-1958-le-palais-dubu-roi-6152656/>
- (31) アルフレッド・ジャリ『ユビュ王』竹内健訳、現代思潮社、1976年。
- (32) <https://www.metmuseum.org/art/collection/search/486748>
- (33) ドリヴァル&ルオー、前掲書、作品番号679。
- (34) *Excelsior: journal illustré quotidien*, January 23, 1915.
- (35) ドリヴァル&ルオー、前掲書、作品番号685–687。
- (36) 註27を参照。
- (37) ジャリ、前掲書、8頁。
- (38) 同上、7頁。
- (39) 同上、90頁。
- (40) 後藤新治監修『ルオー財団秘蔵 ユビュ 知られざるルオーの素顔』展図録、パナソニック電工 汐留ミュージアム、2010年。
- (41) Schlosser, Stephen, “1902–1920: the Hard Metier of Unmasking,” in *Mystic Masque: Semblance and Reality in Georges Rouault, 1871–1958*, exhibition catalogue (August 30–December 7, 2008, McMullen Museum of Art, Boston), Boston, 2008, pp. 97–98.
- (42) *Ibid.*, pp. 96–97.
- (43) ドリヴァル&ルオー、前掲書、作品番号644。《放蕩息子…Ⅱ》はクイン・コレクションの書籍の図版に掲載されている。その図版には、作品右上の余白にPour Bochieと記されているのが確認できる。*John Quin: 1870–1925*, cit., p. 116 with fig. 同様にSur Bochieの文言は同書118頁の図版（ドリヴァル&ルオー、前掲書、作品番号 680）にも見られる。一方同書117、119頁の図版には同じく右上の余白にPour “Noir et Blanc” le Père Ubu aux Coloniesと記されており、後二点はヴォーラルの『植民地のユビュ』に関わるものであったことが分かる。なお、これらはイザベル・ルオーのカタログ・レゾネではそれぞれ作品番号758、726に対応する。
- これら4点は1919年にクインがルオーから購入したアルバム『ユビュ』と『ボシ』を構成していたものであろう。NYPL-MAD-JQP, *Letterbooks*, vol. 18, pp. 276–277. [発信者：クイン、受信者：ルオー、1919年4月29日付、タイプ打ち書簡（写し）]
- (44) ドリヴァル&ルオー、前掲書、作品番号624。この作品には《超人》という別の作品名が付けられている。イザベル・ルオーによれば、この別名はルオーが生前に承認したものであるという。
- (45) こうした一連のカリカチュア作品がヴォーラルの目に留まり、ユビュ・シリーズの挿絵がルオーに託されたという指摘もある。『ルオー財団秘蔵ユビュ 知られざるルオーの素顔』前掲書、58頁。
- (46) ニーチェ『ツァラトストラ I』手塚富雄訳、中央公論新社、2002年。
- (47) ドリヴァル&ルオー、前掲書、作品番号609。
- (48) *Catalogue des tableaux modernes, aquarelles, gouaches, dessins [...] provenant de la collection John Quinn*, auction catalogue (October 28, 1926, Hôtel Drouot), Paris, 1926; Lang, L.-Maurice, *La cote des tableaux ou annuaire des ventes de tableaux, dessins, aquarelles, pastels, gouaches, miniatures*, vol. 9 (October 1926–July 1927), Paris, n.d., pp. 17, 19 with fig., 136.

抄録

凡例

- ジョルジュ・ルオー、ウォルター・パッチ、ジョン・クインの書簡の中から《超人》とその関連作品についての記述を抜粋した。
- 下線部は論者による。さらに下線部の冒頭には註番号を付け、当該箇所について言及した本文の註と対応させた。
- [] は論者の補註もしくは論者が言葉を補った箇所を示す。また、読みやすさを重視して、適宜改行した。
- 各書簡の末尾には典拠を示した。

【書簡 1】

発信者：ジョルジュ・ルオー、受信者：ウォルター・パッチ、1915年6月1日消印、自筆書簡

Cher monsieur Pach.

Vous voudrez bien me dire la dernière limite pour envoyer.

〔註7〕 1° J'ai deux grandes choses en train.

1° Surhomme

2° Paysage "Hiver"

Cela fait 0.79 x 1m 05

Je ne parle que de la toile. Il y a 70° de cadre seulement.

Si vous n'en êtes pas à quelques centimètres près vous aurez le mon "tout dernier effort" [...]

AAA-WPP, Series 2, Box 2, Folder 51

【書簡 2】

発信者：ジョルジュ・ルオー、受信者：ウォルター・パッチ、1916年1月15日消印、自筆書簡

[...] C'est à propos d'un petit cadeau de jour de l'an que je vous dois depuis si longtemps.

Vous aurez bien 1° Surhomme, 2° Paysage: 〔註9〕 Appelez le "Paysage" ou "Hiver" "le Surhomme" "Grotesque", ou "Surhomme". Plus le terme est général et plus il correspond à mon sujet dans la mesure où un mot peut correspondre et avoir une signification ou être une indication quelconque pour une peinture. [...]

Pour en revenir à mon envoi, 〔註24〕 je glisse dans la feuille de carton que servira de fond au "Surhomme" une feuille

de 0^m 80° sur la quelle il y aura un paysage et de l'autre un grotesque. C'est à votre intention M. Pach que cela a été fait. [...]

J'étais pour passer un ton sur le paysage et vous envoyer le grotesque mais j'ai réfléchi qu'il était inconséquent de le faire moi même et une fois le paysage repris. On se demanderait s'il ne fallait pas effacer le grotesque, vous verrez vous même. Un amateur de Bordeaux a de moi un sujet peint des deux côtés. [...]

〔註26〕 Je sais bien que les deux sujets ne sont pas ensemble, enfin vous êtes le propriétaire de l'envoi et libre de faire ce qui vous conviendra. [...]

〔註10〕 Je conseille si mes grandes pièces étaient vendu[e] s de mettre un verre et isolateur. [...]

AAA-WPP, Series 2, Box 2, Folder 51

【書簡 3】

発信者：ジョルジュ・ルオー、受信者：ウォルター・パッチ、1916年1月22日消印、自筆書簡

[...] Je vous préviens tout de même. 〔註11〕 J'ai apporté moi même mon envoi chez Pottier. Il m'ait dit que j'avais parfaitement bien fait. Ils n'avaient pu m'envoyer personne. C'est bien heureux que j'ai encore une dizaine de jours à moi. Je viens d'échanger mon envoi contre un autre identique. 1° Surhomme (dans le double carton la feuille volante que vous est destinée. 2° Paysage.

〔註25〕 Je crois que cette fois les deux grandes pièces ne sont pas inférieures à votre feuille volante. Lundi [January 24] je vais confronter le tout chez Pottier.

〔註25〕 Je rageais et pestais intérieurement que les grandes pièces n'aient pas le style et la couleur des deux petites. [...]

Je vais à peu près en ce moment, mais 〔註11〕 lundi dernier [January 15], il m'a fallu certain héroïsme pour porter les tableaux chez Pottier. Il est surtout nécessaire que je ne me bouscule pas, à cette condition je repends des forces. [...]

AAA-WPP, Series 2, Box 2, Folder 51

【書簡 4】

発信者：ジョルジュ・ルオー、受信者：ウォルター・パッチ、1916年4月1日消印、自筆書簡

Cher Monsieur et ami. 〔註14〕 J'ai bien reçu et le catalogue et votre revue où mon "surhomme" est reproduit mais j'ai été encore si éprouvé tous ces temps qu'il m'a été

impossible de vous écrire et que j'avoue à ma honte je n'ai pas encore fait traduire. [...]

AAA-WPP, Series 2, Box 2, Folder 51

【書簡5】

発信者：ウォルター・パッチ、受信者：ジョン・クイン、1916年5月15日付

[...] ^[註18] I just happened to think that Rouault's "Superman" of which you are now the owner is reproduced in Harper's Weekly as one of the illustrations to my very short article on modern art. Did you say had not seen it? If so I will send you a copy. [...]

Perlman, Bennard B., *American Artists, Authors, and Collectors: the Walter Pach Letters, 1906-1958*, New York, 2002, p. 276

【書簡6】

発信者：ジョン・クイン、受信者：ウォルター・パッチ、1916年5月19日付、タイプ打ち書簡（写し）

[...] I did not know that the Rouault "Superman" had been reproduced in Harper's Weekly. If you will kindly let me know the date I will get two or three copies of it. You need not bother to send me a copy. [...]

NYPL-MAD-JQP, *Letterbooks*, vol. 12, p. 590;
Perlman 2002, p. 276

【書簡7】

発信者：ジョン・クイン、受信者：ステファン・ブルジョワ、1916年6月22日付、タイプ打ち書簡（写し）

Dear Mr. Bourgeois:

I received yours of June 21st at my apartment.

^[註20] The Villon sculpture came all right; also the one painting by Roualut "Superman", "The Yellow Hat" by Dufy, and the water color by Stella. In place of the Rouault landscape there was sent the Seurat. I sent for Of's man and instructed him to return the one sent to me by mistake and get the Rouault landscape. [...]

NYPL-MAD-JQP, *Letterbooks*, vol. 12, p. 892

ジョルジュ・ルオー作《超人》について

— ルオーとウォルター・パッチ、ジョン・クインの書簡の分析を中心に

坂本 篤史 (主任学芸員)

フランスの画家ジョルジュ・ルオーの《超人》は、福島県立美術館がサザビーズ社の斡旋を受け2009年度に購入したものである。画中には右を向いた男性の全身像が描かれており、彼は大きな立襟が特徴的な衣服を身にまとっている。本作品は紙に油彩で描かれ、支持体の紙は板で裏打ちされている。作品のサイズは縦横104.3×74センチであり、画面左上の署名と年記 (G. Rouault 1916) から、1916年の制作であることが分かる。すでに指摘されているとおり、《超人》はアメリカ人弁護士ジョン・クイン (1870-1924) の旧蔵品であった。

本稿ではルオーとクイン、そして二人の共通の友人であったウォルター・パッチ (1883-1958) による未刊行の書簡の分析を通して、《超人》が最初の所有者クインに渡るまでの経緯を明らかにするとともに、本作品の初期の出品歴と関連作品を明らかにする。関連作品として浮上するのは、対作品であったと思われる《ユビュ王の宮殿 I》(所在不明) と、おそらくこれらのヴァリエントであった《ドイツ士官》ともうひとつの《ユビュ王の宮殿》(表裏作品、ニューヨーク、メトロポリタン美術館蔵) である。最後に《超人》の主題解釈についても若干の考察を試みる。なお本稿の末尾には、3人の書簡から《超人》に関する記述を抄録する。

A Study of *Surhomme* by Georges Rouault through an Analysis of Letters by Rouault, Walter Pach, and John Quinn

Sakamoto Atsushi (Curator, Fukushima Prefectural Museum of Art)

Surhomme by French artist Georges Rouault (oil on paper laid down on board; 104.3×73 cm; signed and dated in the upper left corner: G. Rouault 1916) was purchased by Fukushima Prefectural Museum of Art in 2009 through the intermediary of Sotheby's. The artwork depicts the almost full-body profile of a male in outerwear with a prominent high collar. It has already been noted elsewhere that *Surhomme* was formerly part of the collection of American lawyer John Quinn (1870-1924). This paper aims to reconstruct the chronological sequence leading up to *Surhomme*'s acquisition by Quinn, its first owner, through an analysis of unpublished letters by Rouault, Quinn, and their common friend Walter Pach (1883-1958). In the process, the author will also clarify the early exhibition records of *Surhomme* and discuss a related artwork, *The Palace of King Ubu I* (location unknown), thought to be a pendant, and a possible variant on the pair, *German Officer (recto)*; *The Palace of King Ubu (verso)* (The Metropolitan Museum of Art, New York). Furthermore, the author will also consider the subject and interpretation of *Surhomme*. An appendix to the paper includes excerpts related to *Surhomme* from the original texts of the letters.